

と云ふので、今年は牛込と四谷の二區が直營を始め、他の各區でも黙つては居られぬ市でもそれと心附いたが、一時に之を全市残らず區の直營にすると云ふ譯にも行かない。併し、請負人が甘い汗を吸つて居る事だけは明瞭になつて假令現在の請負制度でも改善の餘地があると認めただので、從來は餘り深く干渉しなかつた、撒水車や人夫の服装に注意して、今年各區とも、全部車の塗換へ人夫には必ず市の徽章の附いた法被を着せる事を勵行すべく、請負人に命じた。それから、人夫が無遠慮に車を輓廻つて、通行人の下駄靴着物杯を汚す事を少なくする爲めに、車には必ず鈴を付ける事に爲て、何れも昨今實行しつゝあるのだ。

▽所が、實際恸う厳しくなつては、請負人側では遣り切れない。現在市の手で撒水して居る道路は、全市の撒水すべき道路の半にも達しない。府の指令道路も、勿論全市に限らず行渡る次第でないから、車

中の濕氣を吸つて、撒いたいけの路上は漆喰で固めた如に、ピツタリ塵埃を押へて、其後一週間雨が降らなければ、三月は有効だと云ふ藥だ。其代り撒く時に着物にでも附けば、同じく容易に取れないと云ふ品で、試験の結果は、途中で雨の降つたのと、注意の爲であつたのにも拘はらず、道路工事で掘返したので、充分には確め得なかつたが、外國商人の云ふ程でなくとも、確に有効な事だけは認め得たが、之を用ゐるとなると、一年の坪當りが甘錢に附いて今の充分に行渡らぬ經費では、市では到底用ゐる様がない。併し、町内とか個人で高い撒水費を拂つて居る向には、全然相談にならない品でもない。と當局者は語つた。是杯は撒水夫の將來の大敵で、結局撒水夫は何處まで行つても、救かりつこはない譯なのだ！

道人道の區別のない兩側の各戸は大抵町内で、聯合して、撒水を請負はして居る。此請負も多く區の請負を爲て居るものと同一人で、個人の請負となる、市や區の請負より費用も多く出て御役所向程厳しくも云はぬから彼は融通仕合つて、御役所の仕事も出来るのだと、請負人側では云ふ。雖然市では、今の制度でも充分餘裕のあるものと見て、請負人側を責立てるので、追ては各區とも直營にする覺悟であるから、今後の撒水請負人は、結局各町毎の請負をする外に途はあるまい。

▽雖然、遣る人があるからだからとは云ひ條、夏の炎天に重荷を輓かきて、往來を駈廻らせる事は、孰れにしても褒めた話ではない。所で、其所を見込んで、ツイ此間横濱の某外國商館から、英國製のロール、カルシウムと云ふ塵埃止藥の試験を市へ願出て、三菱の原の有樂町の往來で實驗した。之は白い粉で撒いて地上に達する迄には、化合作用で空

サイダーの製造と販賣

ニ ス 生

サイダーの製造に要する設備をざつと書並べて見やう。

一、製造機械——一回約二百本分製造のもので、八百圓位から千二百圓位まで。これならば先づ最新式のものと言つて差支へない。

二、栓の取付機械——價格約三百圓。これは外國の專賣特許になつてゐるので、製造機械とは全く離れたものである。

三、瓶——勿論上下がある。最上のもので一ダース二十八錢位、下等のものになれば二十錢位のものもある。色の濃いものを使へば安いには相違ないがその代りに製造の日附を付けねばならぬ手數と、破壊の多いは免れない事である。舊瓶は破壊の少ない代りに、買戻しの手數と費用とが嵩むので、結局ダ

一、三十錢位にもつくが、場合によつては寧ろ其方に利益がある。

四、栓——一萬四千五百個入一箱五十五圓前後、即ち、一個代三厘八毛弱、これには破損と云ふやうなことはないので、豫算は何處までも三厘八毛で推して行ける。但し、此れは無地の場合である。

五、栓の印刷——無地の栓一個代三厘八毛弱、それに商標を印刷するとして、一箱の印刷代四圓八九十錢、即ち全部出来上つたものが四厘強に當る。

六、レットル——此れは一樣に言へない。意匠の如何と彩色の如何によつて非常な區別がある。紙、及び紙の形によつても同様である。數によつても勿論のこと。で、まづ、前、後、前の上の三種として、前レットル三色金入一枚一厘八毛位、前の上、細レットル二色金入一枚七毛位、後は普通の一度刷——紙も大分粗末なもので宜いので五毛位、ざつと一瓶に三厘かければ立派なものが出る。

七、瓶の鞘——一個代二厘。これは運搬の場合の破壊を防ぐものである。

八、箱——代十三錢。四ダース入。一本に對する二厘八毛弱。

九、栓拔——一個代二錢。一ダースに一個を添ふ一本に對して一厘七毛弱。

十、係員——機械一臺に對して職長一人、この月俸二十五圓。職工二人、この月俸各十八圓。發送及會計係一人、この月俸二十圓。外に人夫八人、この月俸各十二圓。その他主任者一人、この月俸五十圓。計金二百二十七圓。一日平均七圓五十七錢弱。一日平均製造高四百ダースとして一本につき一厘九毛弱。

其他、廣告料の一本に對する三毛、發動機の費用一本に對する二毛を始めとして、諸雜費計金一厘。以上で總ての設備は果された譯である。が、原料の一本平均二錢二厘は勿論算計せねばならぬ。すると、運搬するばかりに箱詰になつた上での計

算で、一本の全價格は次のやうにならう。

- 原料
- 瓶の印刷 三厘八毛
- 瓶の鞘 二毛
- 箱 三厘
- 栓の印刷 二厘
- 栓 二厘八毛
- 栓の印刷 一厘七毛
- 栓 一厘九毛
- 係員 一厘
- 其他 六錢三厘四毛
- 計金 六錢三厘四毛

○四錢三厘二毛になる。

其れを大抵卸して三圓十錢は特別安値、三圓二十錢と云ふが普通だらう。勿論運賃は先拂ひで

一箱に對する五錢五厘三毛乃至十五錢六厘三毛が純利益になる。但し、此れは總ての損夫を取



去つた上での計算なのだから、賣先と支拂さへ完全であれば、一日平均十圓の純利益は充分見られると云ふ事。

そして、この資金は約三千圓であるが、假りに一萬圓の資金を有したとすれば、ざつと以上の五倍の製造が出来るのである。

また地方へ出すと云ふ事は、小資本の者の出来ない事で、これが爲め失敗に終つた者が大分あると云ふ話。然し、大資本の運轉さへ甘く出来れば、總ての掛りが非常に格安に上るので、三萬圓の資金を投ずれば一本平均四錢五厘位ま

でには上げ得ると云つてゐる。が、其處に主任者、

經營者の特殊の技術の必要は言ふまでもなく、種々の方面から説明せねば解らぬ事である。で、此處では三千圓の資金を標準にして何處までも推して見る。

いま、假りに三圓二十錢一箱のサイダーが地方へ送られるとすると、製造元から停車場まで、停車場から行先の停車場まで、それから販賣所まで、すべて百五十哩内外の地點とすれば、その間に三里や五里は荷車で運ぶ處があつたにしても、十箱の送料六圓と見て置いて充分である。それも一車——七噸積の貨車一臺買切るとすれば、百五十箱約六十圓、一箱にすれば四十錢位で上ることになる。が、此處では十箱の場合の一箱六十錢を運賃と見積れば、販賣所へ届く時には一箱代三圓八十錢になつてゐる。それが一箱四圓二十錢位の小賣店若しくは土地の料理店などへ卸される。と、普通小賣店では此れを一本十二錢で賣る。元價は一本八錢七厘五毛に當つ

てゐるのだから、一箱賣れば一圓五十六錢の利益を見ることが出来る。

料理店ならば、此れを一本十五錢で計算するので一本について六錢二厘五毛宛、一箱では三圓の利益があることになる。

支拂は普通月末、小賣店では賣れた丈の代價を支拂ふことになつてゐるので、つまり委託販賣と云つてよい。

然し、取次店では然うは行かない。第一製造元とは百五十哩も離れてゐるとすれば、事實物品が残つてゐたにしても、其れは一つの口實になつて了ふ。だから取次店では多少品物が小賣店に残つてゐたにしても、製造元から送つて来ただけの代價は、その月末までに取揃へて送らねばならぬ。また然うでもなくては、多大な資本を入れて、小賣店よりも販賣店よりも少ない利益を待つてゐる譯には行かないであらう。

勿論、販賣店——地方の販賣店からは、製造元の方へ抵當が入れてある。尤も信用があつて取次をしてゐるとか、若しくは縣下一手販賣店といふやうなものがあつて、其處から又取次をしてゐるとかになれば、別に抵當を入れる程の必要もなく、入れずにある向きも無いではない。

以上は東京に製造元があるとしての話であるが、これを若し地方でやつたとすれば、運賃は勿論少くなり、職工その他の費用は減じられるに相違ないがレツテルの紙にしても、瓶にしても、栓にしても、その他の總てが東京よりは高價に上るばかりでなくそれら迄も地方で拵へるとすれば、粗末な物しか出来ないといふ工合で、到底東京の品物と競争する譯には行かない。



寧ろ總てを正札附の粗製なものにして、價を安く上げた方が始末が可い。つまりラムネ製造の傍、その機械を利用してサイダー紛へと云つた様な物を拵へて居れば、失敗を招く事はないと云つて可い。

で、いま、比較的暑い期間の短い新潟縣のある町——人口一萬位の町を探つて見るに、夏の最も多い月で六十箱のサイダーが消費され、最も少い月で三十箱は絶えて了ふ。而もその六分は以上は料理店の手によつて使はれると云ふに於ては、些と妙な感じもするが、また田舎には料理店へでも出入りする連中であ

くは、サイダーなどは話にも聞いて居ない者があつて、その六十箱のうちも、新聞に大きな廣告

の出る、つまり大會社の製品が半を占め、半を三四の小會社が分轄してゐる。

小賣店の話によれば、製造の日附の記入されてゐるも善し悪しで、殊に東京の製造に係るものは、賣盡すまでに、一ヶ月餘二ヶ月位もかゝる事がある。すると二ヶ月前の日附を見ながら心持悪く買はれる譯で、それよりは白瓶で日附のない方が、透かして見ても直ぐに腐敗か否か、知れるので、つまり受が宜い事になる。しかし白瓶の方が元價が高いと云ふので、大會社ほど經費の多く異な點から使つてくれない。すると折角廣告で知られた物の方が、妙に客をじらすやうな形で、客の望む品に限つて黒瓶が使つてゐるのは、つまり小賣業者だけが間で苦勞せねばならぬ。

また、取次販賣店は小賣店若しくは料理店ではれた空瓶を、瓶だけ一本一錢から一錢二厘位まで、栓を二厘、瓶の鞘を一厘で買戻す。そして多少の手

大抵の家では水瓶の必要も見なくなつてしまつて、一寸と栓を捻ればちやあつと玉川の上水が送るといふ重寶の時代となつてしまつた。段々と井戸の數も減つて行く、今の分で進めば東京に堀井戸の跡を絶つのも長い間ではなからうと思はれる。左様思ふと何となく一種の思に打たれざるを得ない。

事實水道は重寶なものである、水道の水は好い水だ。が何だか私は水道ではもの足りぬ、成らう事ながら自家の飲料水は堀井戸のものにしたい。また水の質も水道の水は癖のない好い水だが、甘い水ではないと私は思ふ。那樣這塵が因で私は東京の井戸の研究をして見た、下の記載は私が零碎の研究の結果の發表である。

研究の動機

水道の水よりは堀井戸の水が好ましい、飲んで心持が好い、友人を訪問しても先づ此家の飲料水は、

數料を貰つて製造元へ送返すのである。

其他、満洲に於けるサイダー業者、朝鮮に於けるサイダー業者など、種々とその方法を異にしてゐるが、此度は此れだけで止めておく。左に、一種のサイダーの分析表を掲げて見よう。

一〇〇、中に含有する量。

- 〇、四七三
- 〇、〇九〇
- 八、六四五
- 砂、糖
- 灰、分
- 游離炭酸
- 游離枸橼酸
- 痕跡

猶多少の費用と損失とは免れない事で、夏半年のうち資金が倍になれば、まづ大成功と云つてよいとの事。

東京の井戸

井 華 生

今はもう市中を縦横に水道の鐵管が敷設せられ、

水道のか堀井戸のかと氣になつて來るといふ譯で、只だ無暗と堀井戸の水が飲みたくなつた。サアこれが嵩じて、變つた土地へさへ行けば水が飲みたくなつて來る、まあ考へて見れば一種の狂氣沙汰だ。自分で自分を左様けなしては見ても、飲みたいのは矢張飲みたい。咽喉がもとより濁くではないが、變つた土地へさへ行けば、自然と水はと氣になつて來る

此處邊に堀井戸はないかと注意する、もし近くにでも堀井戸があらうものならもうたまらない、直様驅け寄つて釣瓶を手繰り上げる、特に其土地の故事や口碑を思ふと、却々に趣味はある。例へば淺草の公園に行つたとしますな、御承知の通り彼の觀世音の伽藍は慶安三年に建立されたのですな、して見ると慶安三年にも矢張此處に水はあつたわけですな。此水か此水でないかは知らぬが、何れ此水と同じ性質の水を、其當時僧侶も作事方の役人も大工も左官も飲んだんだらうと思ふと、只に水の味といふよりは